

実現可能性の観点からの評価

〈資料目次〉

1. 事業費の評価（市の負担可能性からの観点）	1
2. 補償件数の評価（地権者の負担軽減の観点）	2
3. 実現可能性に関する総括	3

1.事業費の評価（市の負担可能性からの観点）

【事業費に関する現在の状況】

- ・街路事業については事業費の概ね1/2に対して「社会資本整備総合交付金」の活用を想定している。（これまでの執行額約60億円、市の負担額約30億円）
- ・整備案における事業費は5億円～56億円となっているが、市の負担は2.5億円～28億円となる。（史跡保存・活用のための整備については、別途事業費が必要）
- ・市の財源確保のためには、寄付金やふるさと納税の活用も考えられる。

【寄付金やふるさと納税を活用した事例】

●名古屋城本丸御殿復元工事

太平洋戦争によって消失した名古屋城の本丸御殿を復元した。工事は平成19年度から26年度にかけて行われ、要した総工費は150億円。企業・団体からの寄付を主体に、一般からの寄付も加えて約50億を集めた。継続的に市民の関心を引きつけ寄附金を増やすために、修復作業を「展示」という手法が採られた。

●駿府城天守台発掘調査

駿府城天守台とその石垣の発掘調査に必要となる費用を、「しぞ～かふるさと応援寄附金」（静岡市のふるさと納税）によって賄う計画。目標額は1億円で、1278万円が集まっている（平成27年12月末現在）。発掘調査の結果をもとにして天守建物復元の可能性を議論・検討する予定。

●世界文化遺産 三池炭鉱関連史跡整備

「明治日本の産業革命遺産～製鉄・鉄鋼・造船・石炭産業～」の構成要素となっている三池炭鉱関連史跡を復元整備する費用の一部を、寄附によって賄う計画。目標額3000万円のうち、792万円が集まっている（平成27年12月末現在）。

●長崎県上五島町 の文化財保存・修復

上五島町が目的別に募っている「ふるさと納税」のメニューに、「文化財の保存と修復」があり、現在までに487万円が集まっている（継続中）。平成26年度はこの資金を活用して、島のキリスト教会の修復などを行った。



消失前の名古屋城天守と本丸御殿



2.補償件数の評価（地権者の負担軽減の観点）

【整備案の前提条件】（第2回協議会で提示）

- ・できるだけ建物補償の件数を少なくする。特に、建物の再補償は可能な限り回避する。
- ・追加の用地買収面積を少なくする。

【第2回協議会での委員による「補償件数」に関する指摘事項】

- ・特に建物の再補償は地元住民にとって非常に負担が大きく、財産権や生活権補償という点から慎重にすべきである。
（大橋議長）
- ・地元の方の負担をできるだけ減らすという意味では、新たな用地補償はできるだけ抑えたい。
（神田委員）

■補償件数の評価をする際の優先度

- 第1優先:建物の再補償
- 第2優先:建物の補償
- 第3優先:用地買収面積

3.実現可能性に関する総括

整備案		事業費の評価	補償の評価		評価	
		事業費 (概算)	建物補償	用地買収		
4車線	A	西側S字4車線	約10億円	10件 (5件)	2,600㎡ 16件 (2,100㎡ 13件)	課題 大
	B	西側T字4車線	約5億円	3件 (1件)	1,400㎡ 11件 (1,200㎡ 9件) ※資料2の改善案の場合	
	C	トンネル4車線	約53億円	2件 (1件)	700㎡ 10件 (700㎡ 10件)	課題 大
2車線 + 2車線	D	西側S字2車線 東側2車線	約8億円	5件 (2件) + 神社倉庫	2,100㎡ 15件 (1,800㎡ 12件)	
	E	西側S字2車線 東側トンネル2車線	約37億円	5件 (2件)	1,800㎡ 14件 (1,500㎡ 11件)	
	F	西側T字2車線 東側2車線	約5億円	2件 (0件) + 神社倉庫	1,200㎡ 12件 (1,100㎡ 10件)	
	G	西側T字2車線 東側トンネル2車線	約35億円	2件 (0件)	800㎡ 11件 (700㎡ 9件)	
	H	西側トンネル2車線 東側2車線	約26億円	神社倉庫	500㎡ 1件 (500㎡ 1件)	
I	西側トンネル2車線 東側トンネル2車線	約56億円	0件 (0件)	200㎡ 3件 (200㎡ 3件)	課題 大	

↑
・ 史跡保存・活用のための整備には、別途事業費が必要

・ () は再補償及び再買収
・ 建物、用地については今後詳細な検討が必要